社会的人口属性が日本人の道徳判断に及ぼす影響
—道徳判断における二重過程理論に基づいて—

銭 雅純（熊本大学 大学院社会文化科学教育部，qyachun@gmail.com）
瀧本 禎之（東京大学 大学院医学系研究科，takimoto@m.u-tokyo.ac.jp）
安村 明（熊本大学 大学院人文社会科学研究部，yasumura@kumamoto-u.ac.jp）

The impact of socio-demographic attributes on moral judgment of Japanese population:
Based on the dual process theory in moral judgment

Yachun Qian (Graduate School of Social and Cultural Sciences, Kumamoto University, Japan)
Yoshiyuki Takimoto (Graduate School of Medicine Faculty of Medicine, The University of Tokyo, Japan)
Akira Yasumura (Graduate School of Humanities and Social Sciences, Kumamoto University, Japan)

Abstract

Several factors influence people's ability to make moral judgments. Apart from manipulating experimental conditions, this association can be explored in terms of socio-demographic attributes such as the social status and background of individuals. This study aimed to investigate the impact of marital status, parental status, income level, and the type of work on people's tendency to make moral judgments. This study recruited participants from across Japan, who completed 60 moral dilemma tasks, personal moral dilemmas (22 questions), impersonal moral dilemmas (19 questions), and non-moral dilemmas (19 questions) used in Greene et al. (2001). This study found that marital status, parenthood, annual personal income, and work status only influenced moral judgments during personal moral dilemmas. However, this difference was not observed for impersonal moral dilemmas and non-moral dilemmas. This study suggests that individual socio-demographic attributes affect moral judgments during personal dilemmas since people experiencing them are strongly influenced by emotions. This result also supports the applicability of the dual-process model in Japanese culture.

Key words

moral dilemma, socio-demographic attributes, dual-process model, moral judgment, Japanese culture

1. 問題・目的

新型コロナウイルスが世界の人々を苦しめるにつれ、人々の倫理的ジレンマが再び注目されるようになった。例えば、強制ワクチンに対する人々の態度や医療資源が不足している際にどの患者を集中治療室に入院させるべきかについて医師が行う道徳判断などである（Caron, Blanc & Brigaud, 2022; Shortland, McGarry & Merizalde, 2020）。したがって、道徳ジレンマに直面する際に、個人はどの要因に影響されて道徳判断をするのを検討するのは必要がある。

道徳判断に関する研究において、1967 年に有名なトロッコ問題（Foot, 1967）が提起されて以来、数々の道徳的ジレンマ研究のパラダイムが作成された。トロッコ問題とは、分岐器を引いて 1 人を犠牲にして 5 人を救うか、救わないかという判断者のジレンマである。それから約 10 年後、もう一つの有名な道徳的ジレンマである歩道橋問題が提案された（Thomson, 1985）。歩道橋問題とは、暴走するトラムを阻止するために歩道橋から見知らぬ大男を突き落としてその大男を犠牲にして 5 人を救うか、5 人を救わないかのジレンマである 。普通、両問題ともに、多数を救うために 1 人を犠牲にするのは功利主義的（utiliratian）判断だと考えられ、いかなる目的があっても人を害する行為は許されないとするのは義務論的（deontologic）判断だと考えられている（眞嶋・木村, 2014）。

過去 20 年間、道徳判断に関する研究は全盛期に入っているといえる（Haidt, 2013）。研究者たちは、個人の道徳判断と対人コミュニケーションにおける感情の役割に焦点を当てた。そのうち、Haidt が主張する社会的直観者モデルは、道徳判断は道徳的直観によって引き起こされ、必要ならばそのあとに理由付けとしての道徳的推論が続くとするものである（Haidt, 2001）。社会的直観者モデルにおいて、直観、判断、推論をつなぐ一連の因果連鎖からなる感情的なつながりに基づいて、その中で最も重要なのは「直感的判断」と「道徳的推論」である（Paxton & Greene, 2010）（図 1）。

その一方で、研究の発展とともに、情動の役割と伝統的に強調されてきた認知の役割を統合するものとして、Greene らは道徳判断における二重過程理論を提唱した。この理論によれば、義務論的判断に結びついた直観的で情動的な反応と、功利主義的判断に結びついたより制御された認知的反応は、どちらも重要な役割を担っており、場合によっては対立することがある（Greene et al., 2001）（図 2）。

認知理論に基づく二重過程理論は、多くの点で Haidt の社会的直観者モデルと一致しているが、情動と認知との

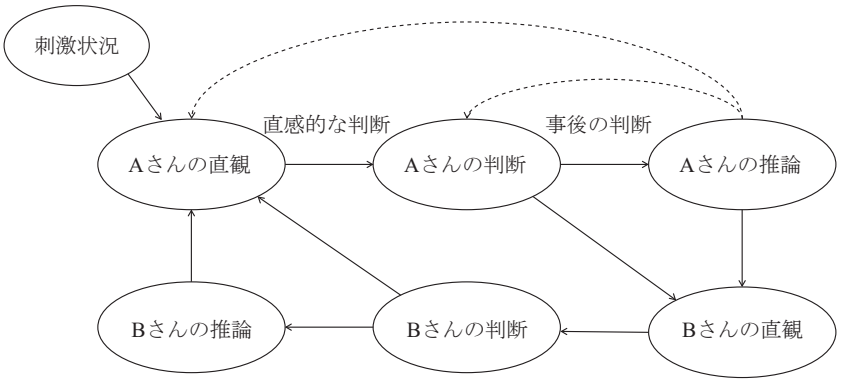

図 1：Haidt が提唱した社会的直観者モデル
注：著者一部改編。

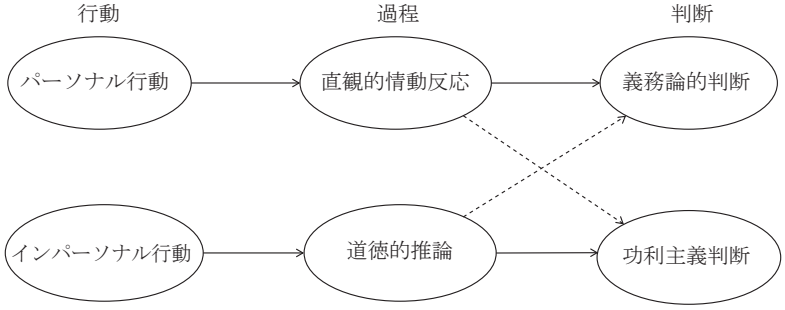

図 2：Greene が提唱した二重過程モデル
注：著者一部改編。

間の競争を強調している（Moore, Clark, & Kane, 2011）。個人は情動に支配されるとき、義務論的判断をするのに対して、認知に支配されるとき、集団的利益を最大化する功利主義的判断をすると指摘されている（相馬・都築, 2013）。さらに二重過程理論に対する直接的な証拠は、情動に関連する障害の研究から得られる。前頭側頭型認知症、腹内側前頭前野部病変、低不安のサイコパス、高テストステロン傾向、アレキシサイミア、などの人はトロッコ問題などのジレンマ課題において功利主義的判断を下しやすいと指摘されている（Ciaramelli et al., 2007; Koenigs et al., 2012; Mendez, Anderson, & Shapira, 2005）。

最近の研究は、道徳ジレンマ場面での道徳判断への影響要因の説明に、道徳判断の二重過程理論が適用することができることを明らかにしている（Greene et al., 2001）。たとえば､認知負荷（Greene et al., 2008）や時間制限（Suter & Hertwig, 2011）、ストレス（Starcke et al., 2012）およびワーキングメモリー（Moore et al., 2008）など、研究者らは条件を設けて研究を行っている。また、道徳判断に影響する要因についての検討が続いている（Christensen & Gomila, 2012; Cornwell et al., 2019）。たとえば、物理的条件による影響、つまり、音（Seidel & Prinz, 2013）、清潔さ（Schnall et al., 2008）や空間的近接の影響（眞嶋・木村, 2014）は個人の道徳判断に影響を与えることが報告されている。しかしながら、環境などの外部要因ではなく、人間そのものの属性、いわゆる個人の社会的人口属性がその人の道徳判断にどう影響するかについては不明な点が多い。とくに二重過程理論においてはあまり検討されてきていない。

Erikson の漸進的な発達理論によると、人間のライフサイクルは一定の順序で発達する遺伝的要因で決定された 8 つの段階に分けられ、それらは普遍的に存在しているとされる（Erikson, 1995; McLean et al., 2020）。個人の社会的人口属性の一つとして、結婚や親になることは成人の発達段階と一致し、一部の研究では、結婚や子どもができた後に個人の変化が生じることが指摘されている。例えば、親になることで、その人の個性、自己概念、自尊心が変わることがわかってきた（Asselmann & Specht, 2020; Galdiolo & Roskam, 2012; Neyer & Asendorpf, 2001）。親が他人と比べて気候リスクを心配するのは、子どもの将来を心配しているからであり（Ekholm & Olofsson, 2017; Sundblad et al., 2007）、彼らの計画意識や責任感が親になってから顕著に強まったことによるものと考えられる（加藤・永井, 2019）。そのため、婚姻状況や子どもの有無は、個人の思考や判断に大きな影響を与えると考えられる。そこで、本研究では、結婚と親であることが個人の道徳判断に影響を与えると仮定した。また、所得や就労状況などの社会的人口属性も評価し、道徳判断との関係を探る。

二重過程理論を踏まえて、Greene ら（2001）は 60 種類の道徳ジレンマ課題を作成して、モラルジレンマと非モラルジレンマ（以下 NM 条件）に分けた。モラルジレンマはモラルパーソナル条件（以下 MP 条件）とモラルイ

モラルジレンマ		モラルパーソナル条件（歩道橋問題同種） 主観的で個人の感情が深くかかわるジレンマ（MP 条件）
	例：	卑劣な上司人を突き落せすこと 子供を窒息死させ、自分と他の住民たちを救うこと
		モラルインパーソナル条件（トロッコ問題同種） 個人の感情があまりかかわらないジレンマ（MI 条件）
	例：	3 人の患者の死を避けるためスイッチを入れること お金を節約するために機関に寄付しないこと
非モラルジレンマ		モラルがかかわらないジレンマ（NM 条件）
	例：	車の内装を傷めないように 2 往復すること クルミが食べたくないのでマカダミアナッツを使うこと

図 3：Greene et al.（2001）におけるジレンマ課題
注：著者一部改編。

ンパーソナル条件（以下 MI 条件）に分けられた（図 3）。MP 条件のジレンマは、歩道橋問題のように主観的でそこから引き起こされる感情が深く関係するとされるジレンマであった。一方、M I 条件のジレンマはトロッコ問題のように個人の感情を含めないジレンマであった。つまり、MP 条件の時に、他の条件と比べて脳がより活動しており、「適切である」と答えるのにより長い時間がかかっていた（Greene et al., 2001）。これは、判断時に感情的妨害を受け、それに対する処理が伴う処理が必要なため、つまり、MP 条件と、MI 条件・NM 条件の間には重大な違いあると指摘されている（寺井, 2009）。今回は、Greene ら（2001）の 60 種類の道徳ジレンマ課題の日本語版（Takimoto & Yasumura, 2022）を使用して調査を行った。

これら諸点を踏まえて、本研究の目的は、道徳判断の二重過程理論に基づき、婚姻状況、子どもの有無、年収、就労状況などの社会的人口属性が、日本人の道徳判断にどのような影響を与えるかについて検討することである。

2. 方法

2.1 研究参加者

調査会社である株式会社マクロミルに登録された 364 名を対象に質問紙調査を行った。質問紙の回答が全体の 16 分の 1 以内であった回答者は、回答が不十分であった可能性が高いため、分析から除外された。上記の除外基準を用いて、残りの 345 名（男性 168 名、女性 177 名）を有効対象とした。平均年齢は 40.2 歳（*SD* ± 11.3、範囲 20.0 ～ 59.0）であった。対象者は、精神疾患などの障害を持たない日本国民とした。地域差をなくすため、参加者は日本全国から均等に募集された。調査は、株式会社マクロミルによるウェブアンケート方式で行われた。

2.2 材料

2.2.1 Greene らの道徳的ジレンマ課題

本研究では、Greene らの道徳的ジレンマ質問紙の日本語版（Cronbach の a = .82）を用いた。質問紙は 3 つに分類された 60 の質問から構成され、十分な信頼性と妥当性が確認された（Takimoto & Yasumura, 2022）。分類には、(a) 多くの人を助けるために少数の人を直接犠牲にすることを伴うモラルパーソナルジレンマ（例えば、沈没しかかっている船から人々を投げ落とす問題）（22 問）、(b) 多くの人々を助けるために少数の人々を間接的に犠牲にすることを伴うモラルインパーソナルジレンマ（例えば、より多くの死者を出す政策に賛成票を入れる問題）（19 問）、(c) 非モラルジレンマ（19 問）が含まれる。回答は、1 = 不適切、2 = やや不適切、3 = やや適切、4 = 適切と 4 件法で記載されている。このほか、19 個の反転項目があった。

2.2.2 社会的人口属性

本研究では、4 つの社会的人口属性についての変数、すなわち（a）婚姻状況（既婚･未婚）、(b) 子どもの有無（子がある・ない）、(c) 就労状況（正社員・非正社員）、(d) 年収（200 万円未満・200 万円から 400 万円未満・400 万円以上）がある。また、自由記述の質問として、「最近何が悩んだり、楽しかったりしていますか？」と尋ねた。

3. 結果

3.1 統計分析

道徳的ジレンマ質問紙の 3 つのカテゴリー（モラルパーソナルジレンマ、モラルインパーソナルジレンマ、非モラルジレンマ）得点において、婚姻状況、子どもの有無、就労状況、年収による違いを確認するために、分散分析を個別に実施した。また、自由記述の回答は、子育てへの関心の有無として独立変数に加えた。各カテゴリーでは、得点が高いほど功利主義的傾向の増加に関連し、平均値が低いほど義務論的傾向の増加に関連している。有意水準は 5 % だった。研究参加者の社会的人口属性の特徴について表 1 に示す。

道徳的ジレンマ質問紙の 3 つのカテゴリー（モラルパーソナルジレンマ、モラルインパーソナルジレンマ、非モラルジレンマ）得点の平均値について、既婚・子あり vs 既婚・子なし vs 未婚・子なしの違いを比較するために一元配置分散分析を行った。なお、シングルマザーとシングルファーザーの数は少なすぎたので、今回の結果から除外した。従属変数は 3 つのカテゴリー得点における項目得点の平均値であった。分散分析の結果を図 4 に示した。既婚子ありと未婚子なしの違いは、モラルパーソナルジ

表 1：研究参加者の社会的人口属性の特徴

		N	率(%)
婚姻状況	既婚	204	59.1
	未婚	141	40.9
子どもの有無	子どもある	166	48.1
	子どもなし	179	51.9
婚姻状況 & 子どもの有無	既婚・子どもある	157	45.5
	既婚・子どもなし	47	13.6
	未婚・子どもある	132	38.2
	未婚・子どもなし	9	2.7
就労状況	正社員	142	41.2
	非正社員	76	22.0
	仕事なし	127	36.8
年収	200 万円未満	146	42.3
	200 万円から 400 万円未満	68	19.7
	400 万円以上	77	22.3
	回答しない	54	15.7

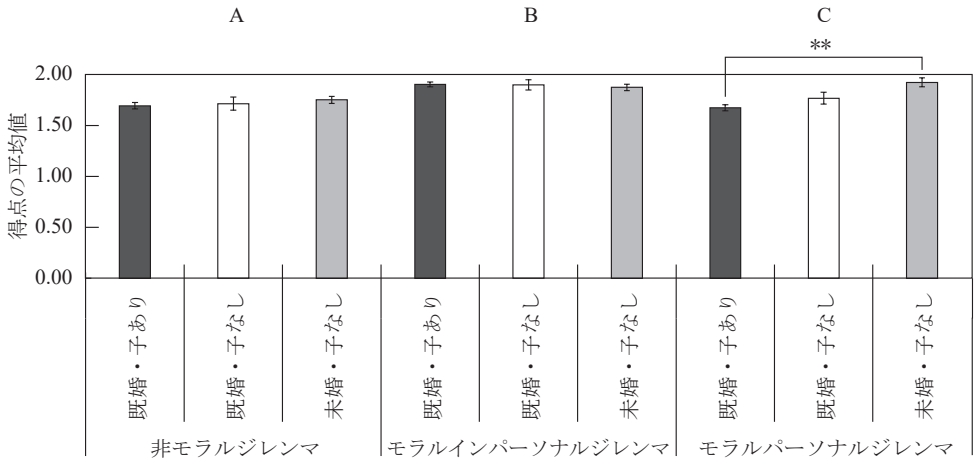

図 4：道徳ジレンマ質問紙において婚姻状況と子どもの有無についての得点の平均値

注：誤差範囲は標準誤差、** : $p < .05$。

レンマにおいてのみ見られ（F (2, 333) = 11.93, $p < .001$, η^2 = .069)、未婚子なしの方が功利主義的である傾向があることが明らかになった。さらに、モラルインパーソナルジレンマ、非モラルジレンマでは、有意な差はみられなかった。

自由記述回答「最近何が悩んだり、楽しかったりしていますか？」については、回答の中で子どもについて言及しているかどうかによって、子育てへの関心の有無として 2 つに分類された。例えば、「最近うれしかったことは、子どもが幼稚園に行くこと、最近気になることは、子どもがやっと歩けるようになったこと」との回答は子育てへの関心有りとして分類された。その後、一元配置分散分析を行い、道徳的ジレンマ質問紙の 3 つのカテゴリー（モラルパーソナルジレンマ、モラルインパーソナルジレンマ、非モラルジレンマ）得点において、既婚・子育てに関心あり vs 既婚・子育てに関心なし vs 未婚・子なしについて違いを比較した。従属変数は項目得点の平均値であり、結果は図 5 のようになった。その結果、既婚・子育て関心有りの個人と未婚・子なしの個人の間と、既婚・子育て関心なしの個人と未婚・子なしの個人の間には、モラルパーソナルジレンマ得点の平均値における差が見られた（F (2, 342) = 9.72, p = .002, η^2 = .056; F (2, 342) = 9.72, p = .001, η^2 = .053)。このことから、子育ての関心の有無に関わらず、未婚・子なしの個人は子どもを持つ個人に比べて、より功利主義であった。しかし、モラルインパーソナルジレンマ、非モラルジレンマでは、有意な差はみられなかった。

また、モラルパーソナルジレンマ、モラルインパーソナルジレンマ、非モラルジレンマ得点の平均値について、正社員と非正社員の違いを比較するために一元配置分散分析を行った。分散分析の結果を図 6 に示した。これらの結果から、正社員と非正社員の差は、モラルパーソナ

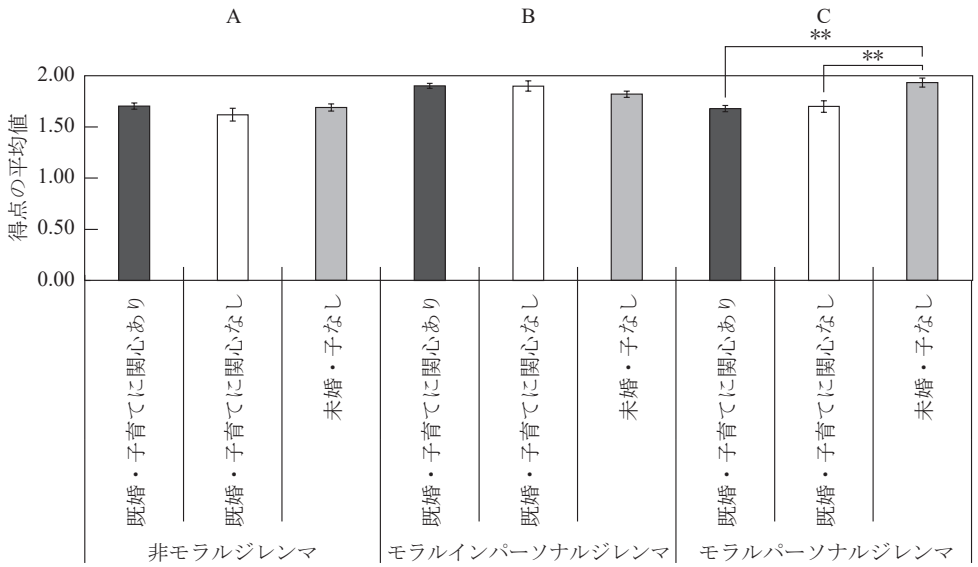

図 5：道徳ジレンマ質問紙において子育てのモチベーションについての得点の平均値

注：誤差範囲は標準誤差、** : $p < .05$。

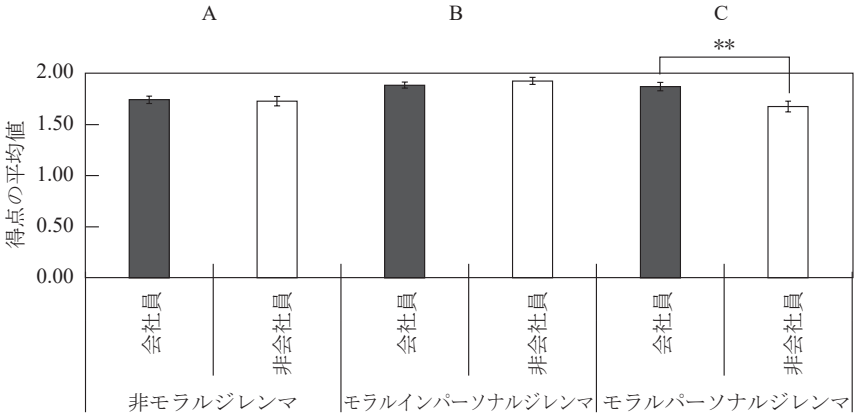

図 6：道徳ジレンマ質問紙において就労状況についての得点の平均値

注：誤差範囲は標準誤差、** : $p < .05$。

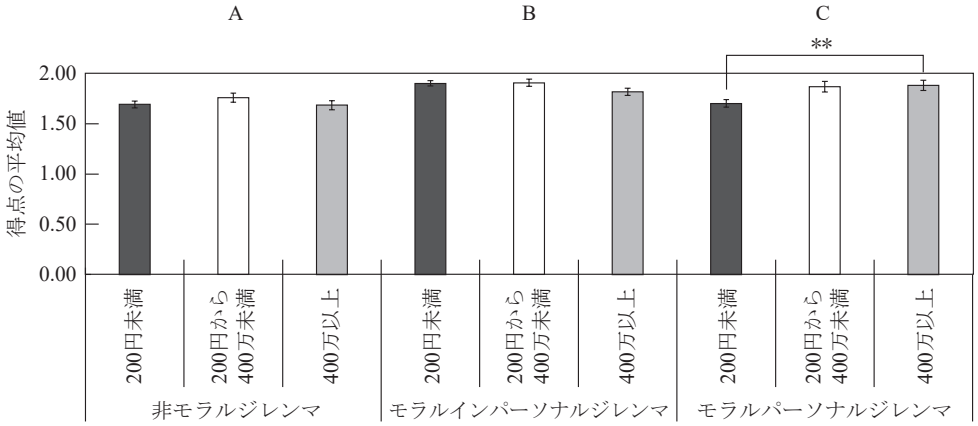

図 7：道徳ジレンマ質問紙において年収についての得点の平均値

注：誤差範囲は標準誤差、** : $p < .05$。

ルジレンマにおいてのみ見られ（F（1, 216）= 8.32、p = .004, η^2 =.037）、正社員の方が功利主義的であった。モラルインパーソナルジレンマ、非モラルジレンマでは、有意な差はみられなかった。

最後に、モラルパーソナルジレンマ、モラルインパーソナルジレンマ、非モラルジレンマ得点について、200 万円未満、200 万円から 400 万円未満、400 万円以上の違いを比較するために一元配置分散分析を行った。分散分析

の結果を図 7 に示した。その結果、所得が 200 万円未満の人と 400 万円以上の人との間にのみ、モラルパーソナルジレンマ得点の平均値における有意な差が見られ（$F(2, 288) = 4.71, p = .023, \eta^2 = .032$）、所得が 400 万円以上の人のほうが功利主義であった。モラルインパーソナルジレンマ、非モラルジレンマでは、有意な差はみられなかった。

4. 考察

本研究は、社会的人口属性が個人の道徳判断に及ぼす影響について、日本人を対象にした二重過程理論に基づく検討を行った。その結果、婚姻状況、子どもの有無、年収、就労状況などが、個人の道徳判断に影響を及ぼすことを示唆する。これまでの二重過程理論に基づく道徳判断の研究では、Greene ら（2001）の道徳ジレンマ質問紙を抜粋して部分的に使用した研究が多かった（Gao & Tang, 2013; Xue et al., 2013）。また、環境など外部要因が道徳判断に及ぼす影響について検討する研究が多く（眞嶋・木村，2014; Seidel & Prinz, 2013）、子どもの有無や就労状況や収入といった人間そのものの属性が道徳判断に与える影響を調査した研究はほとんどない。本研究は Greene ら（2001）の道徳的ジレンマ質問紙の日本語版（Takimoto & Yasumura, 2022）を使用して、社会的人口属性が道徳判断に与える影響を調査した初めての研究である。

具体的に、本研究では個人の婚姻状況、子どもの有無、年収、就労状況などの社会的人口属性の違いが、モラルパーソナルジレンマのみにおいて、道徳判断に影響していることが示唆された。一方、モラルインパーソナルジレンマと非モラルジレンマにおいて社会的人口属性の違いが道徳判断に影響していないことが明らかになった。Greene ら（2001）は、fMRI を用いてモラルパーソナルジレンマとモラルインパーソナルジレンマにおける判断の違いを、情動反応の文脈で説明した。モラルパーソナルジレンマでは、人々により多くの否定的な感情や強い直感的な感情を引き起こす可能性があり、それに反してモラルインパーソナルジレンマがワーキングメモリと関連すると指摘されている（Greene & Haidt, 2002）。また、親密なパートナーからの暴力を行った犯罪者とそれ以外の犯罪者との比較研究（Marín-Morales et al., 2022）や、腹内側前頭前野損の患者と健常者との比較研究（Koenigs et al., 2007）も、この説を支持している。これらのことから、社会的人口属性が情動の誘発と関連することが示唆された。

本研究の子どもを持つ個人のほうが義務論的について、彼らがリスクに対する高い意識と関連する可能性があると思われる。先行研究では、子育てのモチベーションは道徳判断の厳しさや社会的保守性の高さと関連性が示されている（Kerry & Murray, 2020）。親になった人は無害であっても不道徳な行動を軽蔑するようになり、リスクに対する認識が高まることで道徳的警戒心も強くなる（Eibach et al., 2009）。また、痛そうな表情の人の写真を観察させた fMRI を用いた研究では、母親ではない人に比べて母親のほうが共感性に関連する脳部位における活性が高いことが報告されている（Plank et al., 2021）。一方、共感性の高さは、義務論的傾向の高さと関係していると指摘されている。たとえば、Conway と Gawronski の研究では、共感反応を誘発する画像を見る参加者は画像を見ていない参加者と比較して、同じ道徳的判断の課題に対してより多くの義務論的な判断を行った（Conway & Gawronski, 2013）。したがって、子どもを持つ個人は、感情が深く関わるモラルパーソナルジレンマにおいてより義務論的な判断を行ったという本研究の結果は、親になることによる共感性の高まりによるものと考えられる。

次に、個人の収入については、経済力の高い人は、経済力の低い人に比べて歩道橋問題において功利的な選択をする傾向が強く、経済レベルが高い個人において共感性が減少するためであると指摘されている（Côté et al., 2013）。また、収入が人々の道徳判断に与える影響を調査した大規模な調査では、低所得者ほど、道徳判断に批判的であることが示された（Pitesa & Thau, 2014）。本研究の結果は、収入の高い個人がより強い功利主義的傾向を示すことを支持するものであった。職業については、本研究では、正社員のほうがモラルパーソナルジレンマにおいて功利主義的な選択をする傾向があることが示された。これは、日本文化による影響だと考えられている。メンバーシップ文化は、日本独特の終身雇用制度に由来し、この伝統的なシステムに則っている企業は多い（Morris et al., 2018）。会社のメンバーは忠実で、会社の利益を最優先する傾向があり、集団心理により、メンバーは個人の利益と会社の利益が対立した場合、会社の利益を優先し、損害が発生した場合、会社の利益を最大化する結果を選択することを考えるという（宮坂，2015）。これは功利主義の結果と一致する。

以上のことから道徳判断は文化的要因にも影響されることが示唆された。先行研究では、異なる国や文化の個人は、異なる文化的信念体系のために、同じ道徳的ジレンマに直面したとしても、異なる道徳判断を行う可能性があると報告されている（Winskel & Bhatt, 2020）。最近の国際比較研究では、西洋人は正義理論を重視するのに対して、アジア人は責任倫理を重視していると指摘された（Graham et al., 2016）。自動運転車に関わる道徳判断を求める実験において、韓国人と比較して、カナダ人の方が功利主義的な判断をすることが報告されている（Rhim et al., 2020）。また、ヤリ族は西洋人よりも、倒木のジレンマで他の 5 人を救うために 1 人を犠牲にする意欲が大幅に低いことも示された（Sorokowski et al., 2020）。したがって、文化的要因は道徳判断にも応用できる可能性があると考えられる。

5. 限界点と今後の展望

本研究は、西欧において有効とされている Greene らの二重過程理論は、非西欧（日本）においても有効であることを示した。また、婚姻状況、子どもの有無、年収、就労状況などの社会的人口属性はモラルパーソナルジレ

ンマにおいて日本人の道徳判断に影響を及ぼすことも明かになった。しかし、本研究の限界として、シングルマザーやシングルファーザーの人数が少なかったため、彼らのことが検討されていない点がある。そして、今回はインターネット調査である。この種の方法での欠点として、無作為抽出法と比較して解決困難な標本誤差の問題が発生しうることがあり、偏った母集団による調査である点がある。今後の研究では、調査方式の混合利用でデータを増やして、国際比較の視点から道徳判断への影響要因を調べていくことが期待される。

引用文献

Asselmann, E. & Specht, J. (2021). Testing the social investment principle around childbirth: Little evidence for personality maturation before and after becoming a parent. *European Journal of Personality*, 35 (1), 85-102.

Carron, R., Blanc, N., & Brigaud, E. (2022). Contextualizing sacrificial dilemmas within Covid-19 for the study of moral judgment. *Plos One*, 17 (8), e0273521.

Christensen, J. F. & Gomila, A. (2012). Moral dilemmas in cognitive neuroscience of moral decision-making: A principled review. *Neuroscience & Biobehavioral Reviews*, 36 (4), 1249-1264.

Ciaramelli, E., Muccioli, M., Làdavas, E., & Di Pellegrino, G. (2007). Selective deficit in personal moral judgment following damage to ventromedial prefrontal cortex. *Social Cognitive and Affective Neuroscience*, 2 (2), 84-92.

Conway, P. & Gawronski, B. (2013). Deontological and utilitarian inclinations in moral decision making: A process dissociation approach. *Journal of Personality and Social Psychology*, 104 (2), 216.

Cornwell, J. F., Jago, C. P., & Higgins, E. T. (2019). When group influence is more or less likely: The case of moral judgments. *Basic and Applied Social Psychology*, 41 (6), 386-395.

Côté, S., Piff, P. K., & Willer, R. (2013). For whom do the ends justify the means?: Social class and utilitarian moral judgment. *Journal of Personality and Social Psychology*, 104 (3), 490.

Eibach, R. P., Libby, L. K., & Ehrlinger, J. (2009).Priming family values: How being a parent affects moral evaluations of harmless but offensive acts. *Journal of Experimental Social Psychology*, 45 (5), 1160-1163.

Ekholm, S. & Olofsson, A. (2017). Parenthood and worrying about climate change: the limitations of previous approaches. *Risk Analysis*, 37 (2), 305-314.

Erikson, E. (1995). *Dialogue with Erik Erikson*. Jason Aronson, Incorporated.

Foot, P. (1967). The problem of abortion and the doctrine of the double effect.

Galdiolo, S. & Roskam, I. (2012). The transition to parenthood and development of parents' personality and emotional competencies. *International Review of Sociology*, 22 (1), 53-70.

Gao, Y. & Tang, S. (2013). Psychopathic personality and utilitarian moral judgment in college students. *Journal of Criminal Justice*, 41 (5), 342-349.

Graham, J., Meindl, P., Beall, E., Johnson, K. M., & Zhang, L. (2016). Cultural differences in moral judgment and behavior, across and within societies. *Current Opinion in Psychology*, 8, 125-130.

Greene, J. & Haidt, J. (2002). How (and where) does moral judgment work? *Trends in Cognitive Sciences*, 6 (12), 517-523.

Greene, J. D., Morelli, S. A., Lowenberg, K., Nystrom, L. E., & Cohen, J. D. (2008). Cognitive load selectively interferes with utilitarian moral judgment. *Cognition*, 107 (3), 1144-1154.

Greene, J. D., Sommerville, R. B., Nystrom, L. E., Darley, J. M., & Cohen, J. D. (2001). An fMRI investigation of emotional engagement in moral judgment. *Science*, 293 (5537), 2105-2108.

Haidt, J. (2001). The emotional dog and its rational tail: A social intuitionist approach to moral judgment. *Psychological Review*, 108 (4), 814.

Haidt, J. (2013). Moral psychology for the twenty-first century. *Journal of Moral Education*, 42 (3), 281-297.

加藤孝士・永井知子（2019）．親になることによる生活意識の変化―因子得点・構造 , 自由記述からみる量的・質的な変化注目して―．こども学研究，1，85-98.

Kerry, N. & Murray, D. R. (2020). Politics and parental care: Experimental and mediational tests of the causal link between parenting motivation and social conservatism. *Social Psychological and Personality Science*, 11 (2), 284-292.

Koenigs, M., Kruepke, M., Zeier, J., & Newman, J. P. (2012). Utilitarian moral judgment in psychopathy. *Social Cognitive and Affective Neuroscience*, 7 (6), 708-714.

Marín-Morales, A., Bueso-Izquierdo, N., Hidalgo-Ruzzante, N., Pérez-García, M., Catena-Martínez, A., & Verdejo-Román, J. (2022). Would you allow your wife to dress in a miniskirt to the party": Batterers do not activate default mode network during moral decisions about intimate partner violence. *Journal of Interpersonal Violence*, 37 (3-4), NP1463-NP1488.

眞嶋良全・木村汐里（2014）．道徳ジレンマ状況での選択に対する行為の直接性と空間的近接の影響．日本認知科学会大会発表論文集 JCSS，786-790.

McLean, K. C., Boggs, S., Haraldsson, K., Lowe, A., Fordham, C., Byers, S., & Syed, M. (2020). Personal identity development in cultural context: The socialization of master narratives about the gendered life course. *International Journal of Behavioral Development*, 44 (2), 116-126.

Mendez, M. F., Anderson, E., & Shapira, J. S. (2005). An investigation of moral judgement in frontotemporal dementia. *Cognitive and Behavioral Neurology*, 18 (4), 193-197.

宮坂純一（2015）．終身雇用とは何だったのか．社会科学雑誌，13，1-39.

Moore, A. B., Clark, B. A., & Kane, M. J. (2008). Who shalt not kill? Individual differences in working memory capacity, executive control, and moral judgment. *Psychological Science*, 19 (6), 549-557.

Moore, A. B., Lee, N. L., Clark, B. A., & Conway, A. R. (2011). In defense of the personal/impersonal distinction in moral psychology research: Cross-cultural validation of the dual process model of moral judgment. *Judgment and Decision Making*, 6 (3), 186-195.

Morris, J., Delbridge, R., & Endo, T. (2018). The layering of meso-level institutional effects on employment systems in Japan. *British Journal of Industrial Relations*, 56 (3), 603-630.

Neyer, F. J. & Asendorpf, J. B. (2001). Personality-relationship transaction in young adulthood. *Journal of Personality and Social Psychology*, 81 (6), 1190.

Paxton, J. M. & Greene, J. D. (2010). Moral reasoning: Hints and allegations. *Topics in Cognitive Science*, 2 (3), 511-527.

Pitesa, M. & Thau, S. (2014). A lack of material resources causes harsher moral judgments. *Psychological Science*, 25 (3), 702-710.

Plank, I. S., Attar, C. H., Kunas, S., Dziobek, I., & Bermpohl, F. (2021). Motherhood and empathy: Increased activation in empathy areas in response to other's in pain.

Rhim, J., Lee, G. B., & Lee, J. H. (2020). Human moral reasoning types in autonomous vehicle moral dilemma: A cross-cultural comparison of Korea and Canada. *Computers in Human Behavior*, 102, 39-56.

Schnall, S., Benton, J., & Harvey, S. (2008). With a clean conscience: Cleanliness reduces the severity of moral judgments. *Psychological Science*, 19 (12), 1219-1222.

Seidel, A. & Prinz, J. (2013). Mad and glad: Musically induced emotions have divergent impact on morals. *Motivation and Emotion*, 37, 629-637.

Shortland, N., McGarry, P., & Merizalde, J. (2020). Moral medical decision-making: Colliding sacred values in response to COVID-19 pandemic. *Psychological Trauma: Theory, Research, Practice, and Policy*, 12 (S1), S128.

相馬正史・都築誉史（2013）．道徳ジレンマ状況」における意思決定研究の動向．立教大学心理学研究，55，67-78.

Sorokowski, P., Marczak, M., Misiak, M., & Białek, M. (2020). Trolley Dilemma in Papua. Yali horticulturalists refuse to pull the lever. *Psychonomic Bulletin & Review*, 27, 398-403.

Starcke, K., Ludwig, A. C., & Brand, M. (2012). Anticipatory stress interferes with utilitarian moral judgment. *Judgment and Decision Making*, 7 (1), 61-68.

Sundblad, E. L., Biel, A., & Gärling, T. (2007). Cognitive and affective risk judgements related to climate change. *Journal of Environmental Psychology*, 27 (2), 97-106.

Suter, R. S. & Hertwig, R. (2011). Time and moral judgment. *Cognition*, 119 (3), 454-458.

Takimoto, Y. & Yasumura, A. (2022). The development and verification for reliability and validity of a Japanese version of greene et al.'s moral dilemma questionnaire.

寺井朋子（2009）．Haidt の社会的直観者モデルについての一考察―モデルが道徳性研究に与える影響とこれからの道徳性研究の方向性―．モラロジー研究：倫理道徳研究フォーラム／モラロジー道徳教育財団，道徳科学研究所編，No. 63, pp. 109-124，モラロジー研究所.

Thompson, J. J. (1985). The trolley problem. In J.M. Fischer & M. Ravizza (Eds.), *Ethics: Problems and Principles*. Fort Worth, TX: Harcourt Brace Jovanovich. pp. 67-76.

Winskel, H. & Bhatt, D. (2020). The role of culture and language in moral decision-making. *Culture and Brain*, 8 (2), 207-225.

Xue, S. W., Wang, Y., & Tang, Y. Y. (2013). Personal and impersonal stimuli differentially engage brain networks during moral reasoning. *Brain and Cognition*, 81 (1), 24-28.

（受稿：2023 年 2 月 9 日　受理：2023 年 2 月 24 日）